

渡辺よしてる

稚竹幼稚園・志村第五小 → 紅梅小・赤塚第三中出身!



インクルージョン推進調査特別委員会

※インクルージョンとは、多様な人々が互いに個性を認め、一体感を持って働いている状態のこと

インクルージョン推進調査特別委員会ではこれまで区の現状確認を行いました。

- ☑ 障がいのある子どもへの支援
- ☑ 特別な支援を必要とする子どもへの支援
- ☑ 周囲に対する障がい理解の促進
- ☑ 障がい者への就労支援の現状
- ☑ 当事者家族に対する理解促進

重点調査項目 乳幼児時期における特別な支援を必要とする子ども及びその保護者への支援について

特別な支援を必要とする子どもへの支援について提言の方向性

1 関係機関との連携体制の構築・強化

関係機関との連携体制については、今後整備していくサポートファイルの活用に加え、区内医療資源等の状況把握や転入・転出の際の自治体間での的確な情報共有が重要である。

また、産後ドゥーラの導入を含め、東京都の補助事業も積極的に活用していく必要がある。

子ども発達支援センターについては、電話及び窓口での相談がより早期に可能となるよう体制の見直しを図るべきである。



2 既存事業の見直し

特別な支援を必要とする子どもに対しては、乳幼児健康診査での早期発見と、支援事業への連携に向けた新たな工夫が必要である。既存事業の抱える問題点を解決するためには、支援や連携が困難なケースなど区が認識している課題に着目した上で、検討を進めていくべきである。

3 事業継続に向けた工夫の必要性

特別な支援を必要とする子どもへの支援事業等については、コロナ禍等の社会状況により休止や縮小とするだけではなく、実施回数の増加やオンラインの活用など、より安心して参加できる形に再構築することで、事業の継続を図るべきである。



裏面へ

4 利用環境の整備

児童館における支援事業については、利用対象者の明確化を図るとともに、実施館を増やすことで、より利用しやすい環境の整備を行うべきである。



5 データの集計・活用

必要な施策の検討に当たっては、支援事業の結果やアンケート調査等の客観的なデータの活用が重要であり、クロス集計の結果や統計を基に調査・研究をすべきである



6 障がいへの理解・認識

子どもの障がいを保護者が受け入れるまでには時間を必要とする場合もあるが、その気持ちに寄り添いながら障がいの早期発見・早期対応に取り組む必要がある。

また、障がいの有無に関わらず生活が可能となる社会を実現するためには、障がいへの理解が深まるような周知・啓発活動等を進めていく必要がある。

障がいの特性を踏まえた上で、障がい者へのサポートや言葉遣いについても、障がいを一つの個性として捉えた上で行うよう心がけるとともに、個人の可能性が最大限に発揮できるような環境の整備を進めるべきである。

詳しくは委員会HPへ



議会トピックス



板橋区議会基本条例の検証を行いました

板橋区議会では、議会基本条例の目的・原則などに則して議会運営が行われているかどうかについて令和3年7月から12月にかけて検証を行いました。その結果、概ね適切に運用されていることを確認しました。主な検証結果は以下のとおりです。検証結果の全文はホームページに掲載しています。

条文	検証内容	検証結果
第12条 議会報告会	議会報告会の開催方法・回数について	議会報告会については、多岐にわたる意見交換が行われた結果、現行の条例の趣旨に則り開催していくこととした。なお、議会報告会のさらなる深化のため、議会運営委員会を通して議論を深めていくことが望ましいという意見で一致した。
第17条 危機管理	大規模感染症を含む災害時の情報共有について	現行の条例の趣旨に則り適切に運用していくこととし、感染症を含む災害時の対応については、議会運営委員会において現状や課題などの検証を行っていくことが望ましいということで意見が一致した。

渡辺よしてるプロフィール

1987年(昭和62年)東京都板橋区生まれ
 ◇稚竹幼稚園◇志村第五小学校◇紅梅小学校◇赤塚第三中学校◇都立北野高校
 ◇専修大学(中退)◇議員秘書◇専業主夫◇板前
 ◇2019年(平成31年)板橋区議会議員(初当選)◆娘と息子のパパ



@yoshiteru62



@yoshiteru62



OFFICE_YOSHITERU_WATANABE



LINE@ 友達募集中!



http://www.yoshiteru.jp/

